

令和5年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

入賞作品集



目次

令和5年度「平和について」ポスター・作文コンテスト . . . 2

ポスターの部（小学校6年生）入賞者

市長賞「(無題)」	東海岸小学校	<small>わたなべ</small> 渡邊 あいの . . . 3
議長賞「すべての人が幸せに」	緑が浜小学校	<small>きのした</small> 木下 <small>ななお</small> 七音 . . . 3
教育長賞「live together」	東海岸小学校	<small>すずき</small> 鈴木 ひかり . . . 4

作文の部（中学校2年生）入賞者

市長賞「平和は一つの意見」	円蔵中学校	<small>しもやま</small> 下山 <small>ひろみ</small> 博美 . . . 5
議長賞「忘れられた歴史はくり返す」	鶴嶺中学校	<small>こいずみ</small> 小泉 <small>なつき</small> 菜月 . . . 6
教育長賞「偏った「普通」」	第一中学校	<small>ながぬま</small> 長沼 <small>かい</small> 快 . . . 7

平和都市宣言 8

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言 9

令和5年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

- 1 募 集 広報ちがさき5月1日号及び学校を通じて市内在住・在学の
小学校6年生を対象に「平和について」のポスターを募集。
中学校2年生を対象に「平和について」の作文を募集。

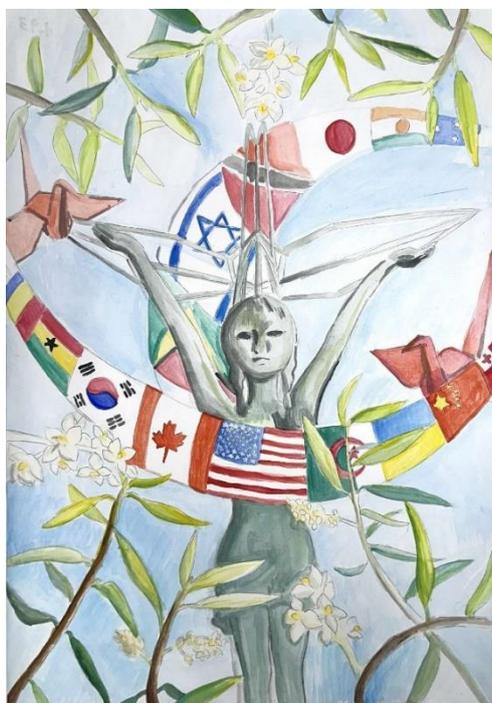
- 2 参加状況 小学校6年生ポスターの部 7校 617人
中学校2年生作文の部 4校 448人

- 3 審 査 (1) 一次審査
・ポスターの部
6月23日(金)午後3時30分から午後5時まで
市役所本庁舎4階 会議室1～3
・作文の部
6月6日(火)から6月14日(水)まで
(2) 事前審査
・ポスターの部
6月26日(月)から6月29日(木)まで
・作文の部
6月19日(月)から6月29日(木)まで
(3) 最終審査・賞の決定
・ポスターの部／作文の部
7月3日(月)午後1時30分から午後2時30分まで
市役所分庁舎5階 D会議室

- 4 審 査 員 (1) 一次審査員
茅ヶ崎・寒川地区小学校教育研究会推薦教諭
茅ヶ崎・寒川地区中学校教育研究会推薦教諭
(ポスター2人・作文2人)
(2) 最終審査員
市長、市議会議員、教育委員会教育長、文化スポーツ部長、
教育指導担当部長、学校教育指導課長

ポスターの部（小学校6年生）

市長賞



東海岸小学校 わたなべ
渡邊 あいの

議長賞



緑が浜小学校 きのした ななお
木下 七音

教育長賞



東海岸小学校

すずき
鈴木 ひかり

作文の部（中学2年生）

市長賞「平和は一つの意見」

円蔵中学校 しもやま ひろみ
下山 博美

「平和とは何か」私が、こう考えた大きなきっかけは、ロシアとウクライナで戦争が起きているのを知ったことだ。このことを知るまでは平和や戦争について学んでも心のどこかで、戦争は昔のことであり自分が生きているときには戦争など起こらないだろうと思っていた。しかしニュースにより戦争が起きていることを知り、自分が生きているときに戦争が起きない保証はない。そう考えると将来が不安になった。今まで学んできた戦争はとも悲しく残酷な内容で、体験なんてしたくない。何より二度と繰り返してはいけないと学んできた。戦争が起きないようにするために、戦争の原因を考えていく。

私は戦争の原因を大きく三つに分けた。考え方の違い、資源・領土の争い、政治の争いの三つだ。この三つは全て自分たちの平和のために人々が争ったということであり、それぞれの考える平和がすれ違って戦争の原因となっていると思う。例えば考え方の違いは民族や宗教の争いで、国によって文化が違うように住んでいる場所や信じているものが違うと自然と平和の形・平和になるための手段などが違い、それぞれが自分の考えを貫こうとした結果争いになるなどである。このように資源・領土の争い、政治の争いも平和のための活動がすれ違うことで戦争に繋がる。

私にとっての平和は「全ての国で争いがなく、穏やかに暮らしていける」だ。人によって考えも違うため平和とは何か調べた。「武器が必要ない、犯罪やいじめがない、家族・友達と暮らせる」など沢山の考えがあった。今挙げた平和の考えは全ての人に対してなのか、自分たちだけが当てはまるのか、という二つの捉え方ができると思う。自分にとっての平和は一つの意見であり、その意見が一人一人違うのは当たり前だけれどその意見が自分と違っていても受け止め、尊重し合い、伝え合うのが大切なのではないか。そして、一人一人が平和について関心を持つことが必要で、そのために道徳や国語の教材とすることやテレビで流し、まだ戦争について知らない子供たちや大人に学ぶ、考える機会を用意していく。

戦争を無くしていくために私は、過去の出来事と向き合い、忘れない。また、自分よりも後の世代に語り継いでいく。簡単で小さなことに思えるけれどこれがどんどん繋がれば大きな影響を与えられると思う。私はこの最初の一歩になって、言葉だけではなく行動で「戦争を無くす人だ」と示したい。

今すぐ違う考えを持つ人々が互いを受け入れられることはないだろう。けれど実現させるための取り組みを今から行うのと行わないのではかなりの差が出る。人々が考える平和を実現するために互いの意見を受け入れ、尊重し折り合いをつけながら伝え合うことができ二度と戦争が起こらない。そんな世界にしていきたいと私は願う。

議長賞「忘れられた歴史はくり返す」

鶴嶺中学校 こいずみ なつき
小泉 菜月

私は今まで、知識を伝えるだけで、どうして平和になるんだ。もっと別のやり方がいいのではないかと、思っていた。なぜそう思ったのかというと、知識を増やしても怖いだけで、その行動にどんな意味があるのかを知らなかったからだ。しかしその考えは「忘れられた歴史はくり返す」という一言で、百八十度見方が変えられることになった。

五月二日。私達は広島から来校された原爆伝承者の方から、被爆体験を聞き、原爆が投下された日のことについて学んだ。そこで聞いた話はどれもショッキングで、七十年以上も前の話とは思えないほど、鮮明に色を保っていた。特に私が覚えているのは、原爆投下の目標都市に横浜が入っていたことだ。私が住んでいる茅ヶ崎から横浜までは約二十キロ。もしそこに原爆が投下されていたら、間違いなく被害を受けていただろう。それを知ったとき、私は恐怖を覚えた。広島でおこった出来事について知っていたからこそ、より怖いと感じた。ここで私は、何か自分にできることは無いか考えてはみたものの、どれも私には難しいと思った。ただ知識を増やして身近な人たちにしか話すことができない。この行動に意味があるとは思えなかった。では私はこれまで何のために戦争について学んできたのか。結局何も変えられないのか。そんなことを考えていたとき、伝承者の方が話の冒頭で

「忘れられた歴史はくり返す。」

そう言っていたことを思い出した。もし人々が戦争や原爆の恐ろしさを忘れてしまったら、きっとまた同じことがくり返されるだろう。しかし、一人でもそれを知っていて、広められる人がいるならば、ただ少しだけ他の人と話をするだけで原爆について語り継ぐことができる。伝承者が0でない限り、忘れられずにこの事実を伝えられる。いずれ、この話が世界まで広まり、戦争は良くないことだという意識が定着すれば、少しでも争いが減るかもしれない。私が今まで無駄だ、なんて思っていたことは、世界平和への大きな一歩だったのだと思い知った。

さらに、この言葉は戦争だけでなく、人種差別や環境問題、いじめといった世界の様々な問題に通じていると私は思う。良い行動と悪い行動の区別をつけずにただ自由に暮らしていれば、いつか自分達が痛い目を見ることになるだろう。これから起きると予測される未来と、既に起きていた過去の出来事から目を逸らさず行動して「今」を変える。それが今の私達にできることではないだろうか。そうして一つ、また一つと世界の問題が減っていく。歴史を語り継ぐ、という行動は簡単なことだが、とても大切なことだと思う。

この作文が、一人でも多くの人に、前の私と同じような考えを持つ人の考え方が変わるキッカケになってほしい。そして、いつかこの世界に平和が訪れることを願っている。

教育長賞「偏った「普通」」

第一中学校 ながぬま かい
長沼 快

私がこれからの世界を考えるときに重要だと考えているのが、「いかにお互いの価値観の相違を埋めて、すれ違いを減らしていけるか」ということだ。価値観や、その人にとっての普通は、生まれた国や環境によって作られている。しかし、それぞれの「普通」がすれ違ったり、ぶつかったりして、差別や分断を起こしたり、争いを生んでしまうかもしれない。だから、より多様な意見を取り入れて他国を理解し合うのが大切だと考える。

一つ、私がそれを実感した出来事がある。以前原爆についてのニュースをインターネットで読んでいた際に、ある記事が目にとまった。アメリカの高校のロゴについてだった。一瞬目を疑った。それは、原爆のキノコ雲のデザインがはっきりと表されたロゴだった。私はなぜそんなものが学校のロゴにされているのかと、困惑した。読み進めてみると、どうやらこれはもともと原爆に使われるプルトニウムを生産していた地域の高校だと分かった。そしてそのロゴには、「キノコ雲は我らの誇りだ」といった文言が添えられていて、地域住民に親しまれたロゴなのだそうだ。アメリカでは、原爆は戦争を終わらせて、命を救ったものだとされることもあり、日本と異なる見解がある。そんな経緯で、キノコ雲のデザインが公的なものに使われているのだ。

私たち日本人からすれば、原爆の悲劇を軽く扱ってほしくないだろう。ただ、これはあくまで日本人としての受け取り方であり、私たちにとっての「普通」は日本国内の視野の中の普通だ。当然違う立場で生まれてきたアメリカの人々とは異なる形でこのことを見ている。だから、そのような考えや、受け取り方を真っ向から攻撃するのではなく、持っている知識や考えの持ち方の違いをお互いに認識しあった上で話すべきだと思う。そうして、初めてこのロゴについて議論できるはずだ。そうでないと、単なる攻撃になってしまう気がする。

このように、認識のずれや、知らず知らず偏っていた考えがお互いにすれ違くと、意見の衝突が起きてしまうと感じ、相互理解の大切さが伝わる出来事だった。この他にも、性別による不平等、人種での争いなど、お互いの主張を偏りなく理解する大切さの感じる問題はいくつもある。だから、いつ何を考えるときでも、「自分は世界を適切に捉えている」と思わずに、常に自分の見ている狭く偏った世界の「普通」を疑い、謙虚に見つめ直すことが大切だと考えている。

この先私も偏った考えをすることがあるかもしれない。だからこそ、常に自己を省察しながら平和へのプロセスを築いていきたい。そして、皆がお互いを理解し合えた頃には、世界の平和が皆にとっての「普通」となることを願っている。

平 和 都 市 宣 言

茅ヶ崎市は、正義と秩序を基調とする世界平和を希求している日本国憲法の精神にもとづいて、世界連邦の建設に同意し、世界の永久平和の確立と人類の福祉増進のために、全世界の人々と相結んで、この崇高な目的の達成に努力する平和都市であることを宣言する。

1962年12月19日 茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言

茅ヶ崎市は、1962年12月19日世界人類共通の願いである真の恒久平和を希求し、その実現に努めるため、平和都市宣言を行った。

しかるに地球上では今なお核兵器の増強はとどまることなく、全人類の生存に深刻な脅威をあたえている。

よって、再び全市民の名において次の宣言をする。

日本国憲法に基づき国是である非核三原則を遵守する国とともに、地球上のすべての自然を破壊し、全人類を滅亡させるにたるあらゆる国の核兵器の使用を全面禁止する国際世論を喚起するため、茅ヶ崎市はここに核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

1985年12月24日 茅ヶ崎市

令和5年度 「平和について」ポスター・作文コンテスト入賞作品集

令和5（2023）年8月発行

第1刷 60部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 文化スポーツ部多様性社会推進課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話 0467-81-7150

FAX 0467-57-8388

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和5年6月1日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままに編集を行っています。